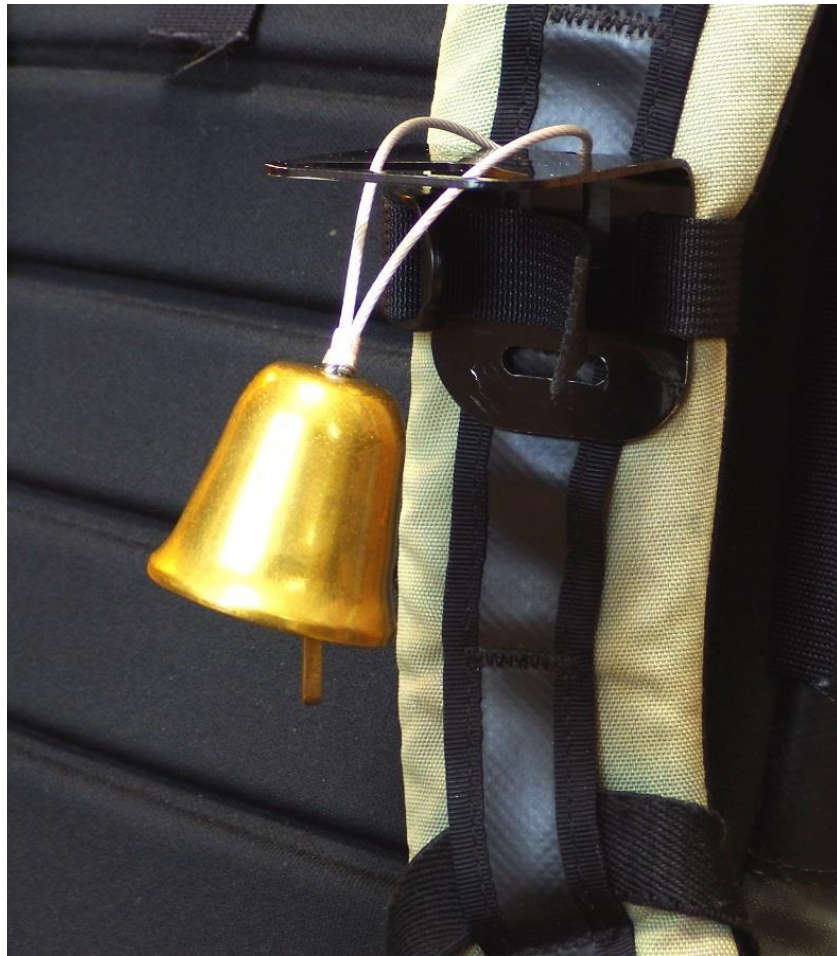




ゼロベル (C11) & 鈴掛 (C12)



-DATA- 鈴掛
ジュラルミン(A7001)製
カラー:ブラック 重量:25g
価格:1,188円(税込)

-DATA- ゼロベル
真鍮製/カラーゴールド
吊り 消音板つき
価格:2,268円(税込)

当社の商品はすべて **Made in Japan** 表示をしています。

〒334-0062 埼玉県川口市榛松 699

TEL 048 (281) 1322 FAX 048 (286) 0866

<http://www.exp-japan.jp> e-mail: exp.offjapan@gmail.com



【重要】パーツ関連 発注単位変更のお知らせ

2017年4月1日以降の発注分よりパーツ関連の発注単位が変更となります。単価1,000円以下の商品は1点からの出荷はお受けできません。下記の商品の一部が対象商品となりますので、ご注文の際はご注意ください。

発注単位:6点

変更時期:2017年4月1日 発注分より

※エキスパートオブジャパンでは一般ユーザーのお客様から直接の修理受付やパーツ販売も対応しています。店頭での対応が難しい場合は当社への直接問い合わせをお客様にお勧めください。

<問い合わせ先>

株式会社エキスパートオブジャパン TEL:048-281-1322 FAX:048-286-0866

e-mail:exp.offjapan@gmail.com

<対象商品>

◆スノーシューズ バンド関連パーツ

発注単位は6点となります。1本からの出荷はお受けできません。

○リングテープ(25mm幅)横バンド :660円+税 / 1本

○センターベルト(25mm幅)縦バンド:660円+税 / 1本

○スノーシューズ用フロントバンド :600円/ 1本

◆メタル関連パーツ

発注単位は6点となります。1点からの出荷はお受けできません。

下記の表は単価表記(税抜上代)となりますので、発注単位での金額は単価×6点で計算して下さい。

エキスパート メタルパーツ

NO.	商品名	寸法等	材質	重量(g)	単価	備考
1	美錠	15mm幅	ステンレス	8	700	アイゼン・スノーシューズ用バックストップ
2	バックル	15mm幅	ステンレス	2	200	バンド調整具
3	バックル	25mm幅	ステンレス	5	500	バンド調整具
4	バックル	50mm幅	ステンレス	20	2,000	安全ベルト用 2mm厚
5	丸カン	20φ×25φ×2t	ジュラルミン	2	250	バンド通し
6	三角カン	15mm幅	ジュラルミン	2	250	バンド通し
7	角カン	15mm幅	ステンレス	1	200	バンド通し
8	三股カン	15mm幅	ジュラルミン	3	500	アイゼン・スノーシューズのヒール固定バック用
9	中空リベット	4mm×28mm	鉄 3価クロメート	3	120	スノーシューズ爪用
⑩	ABN 並大カシメ	両面 8.5mm	アルミ	0.5	20	スノープレートバックカシメ用
11	アルミクリップ		アルミ	0.1	100	スノープレート用
⑫	ベルト	15mm幅×50m	ナイロン/赤色	880	8,925	アイゼン・スノーシューズ用
⑬	ベルト	25mm幅×50m	ナイロン/赤色	1,480	10,125	スノーシューズ用
⑭	板スパナ	M8	鉄	5	300	8P~14P用
15	四角ナット	10mm×10mm×5mm	クロモリ鋼	2	300	8P~14P用
⑯	六角レンチ	4mm×3mm	鋼	4	200	リトルベア・8P~14P用
⑰	六角穴付き皿ボルト	M5	鋼	3	100	8P~14P用
18	六角ナット	M5	鉄	2	20	8P~14P用
21	リングテープ	25mm幅	ナイロン/赤色		660	スノーシューズ用横バンド
22	センターベルト	25mm幅	ナイロン/赤色		660	スノーシューズ用縦バンド
27	キャップボルト	W、SW付	ステンレス	6.5	200	SPリトルベア用ボルト

※番号に○がついていない品物はすべて我社のオリジナル商品です。
世界最軽量。既製品では満足できずに研究開発したすぐれもの揃いです。

雪山もシーズン最終となっています。今シーズンの追加生産はありませんので在庫無くなり次第終了となります。GW 需要前に早目のフォローお願いいたします。

勤勉なメイドインジャパン スノーシューズシリーズ

強いぞニッポン

◆スノーシューズM(SN3)

税込価格:¥13,122(本体価格¥12,150)

◆スノーシューズM(F)フラット型(SN17)

税込価格:¥12,744(本体価格¥11,800)

- DATA -

材質:A6063 アルミ製。爪はステンレス製。
爪高:49 mm。カラー:シルバー。バンドは赤色。
サイズ:410 mm×182 mm 重量:770g



だんとつニッポン

◆スノーシューズL(SN4)

税込価格:¥13,392(本体価格¥12,400)

◆スノーシューズL(F)フラット型(SN18)

税込価格:¥13,122(本体価格¥12,150)

- DATA -

サイズ:441 mm×182 mm 重量:780g 他は M と同じ

便利なニッポン レッドバット シリーズ

レッドバットはピッケルのシャフトにセットできます。その際は石突きの穴にスコップ柄部分のボルトをはめて蝶ボルトを締めて下さい。専用のシャフトにセットする際は先端の穴にスコップ柄部分のボルトを入れてロックして下さい。レッドバットは4隅の10 mm φ 穴を利用してデットマンとしても使用可能です。



スノーソー装着時 レッドバット装着時

◆**レッドバット(SN11)** 材質:ジュラルミン製。 カラー:ピンク サイズ:222 mm×258 mm。 重量:365g。
新雪が付きにくいショッキングピンク塗装がしてあります。

最新型の細身のピッケルシャフトにもセットできます。

税込価格:¥5,832(本体価格¥5,400)

◆**レッドバット用シャフト(SN12)** 材質:ジュラルミン製 カラー:ブルー 長さ:54cm 重量:275g
雪掘り能力がアップするD型グリップつき。シャフト上部の6 mmロープを通す穴はスノーハーケン用。

税込価格:¥5,400(本体価格¥5,000)

◆**レッドバット用スノーソー(SN13)** 材質:特殊鋼(SK-5)製 カラー:ブラウン(赤色焼付塗装)
サイズ:405 mm×25 mm。 重量:115g

レッドバット用シャフトに収納でき、シャフトが柄にもなるラチェットつき。氷、雪用鋸。

税込価格:¥4,968(本体価格¥4,600)

スギ花粉が飛び始めた2月下旬。本格的に花粉が飛散される前に山登りに行こうと計画。引越した関係で神奈川の山が近くなる。たまには神奈川の山に行ってみようと丹沢山系の地図を広げると、登ったことがない山がまだまだたくさんある。今回は高取山、仏果山、経ヶ岳の三つの山を縦走するコースに決める。標高はどれも750m以下の山だが、調べるとどこも展望がいいようである。登山口がいくつかあるようだ。一番タイムコースが短い登山口を選択。前日にバスの時間と乗り場を調べる。ゆっくりお昼も堪能しようとコッヘルも準備。

2月25日(土) 晴れ 6時47分武蔵新田駅出発

予定より1本早い電車に乗ることができる。電車を3回乗換え、小田急線の本厚木に8時03分着。本来なら8時40分発「宮ヶ瀬行き」のバスに乗り「仏果山登山口」で下車するはずだったが、「半原」というコースから入るルート「半原行き」のバスがバス停に停車していた。「宮ヶ瀬行き」のバスを30分以上待つなら、別ルートから登ってもいいかとせっかち精神で「半原行き」のバスに乗り。前方の席が運よく空いていたので座ることも出来た。乗車しているほとんどが登山者である。皆、仏果山登るのかな?と聞いていたが、途中の「半増坊前」というバス停でほとんど下車してしまう。どうやら皆同じ団体の登山者のようだ……もしかして、仏果山目指しているのは私一人であろうか?

終点の手前「燃糸組合前」というバス停で下車。私一人か…と聞いていたら、バスからおじ様が一人降りてきた。出発の準備をしているとおじ様が話しかけてくる。「すみません、ここはじめてなもので、一人かと思ってちょっと不安でしたが、あなたがいらっしゃって安心しました」と。「よければ、途中まで一緒でもいいですか?」というので、おじ様(以下Aさん)と一緒に登山口を目指す。実はAさん、半原行きの別ルートのバスに乗るはずが、調度バスが来たので悩んだが、このバスに乗車したとのこと。「やっぱり調べたバスに乗車すればよかったな~、毎回山に行くと、来たのに乗ってしまうんです」と。話を聞くと、毎週日帰りどこかの山に登りに行っているとのこと。「すごい!羨ましい!」という私の反応に「いえいえ、体力づくりです」と笑顔で返答される。定年してから山登りを始めて3年目とのこと。毎週登っていれば、相当足腰は強くなられているはず。しかも定年後も平日はお仕事されているご様子。

<ポイント1>

半原燃糸

半原の燃糸業は、文化4年(1807年)小島紋右衛門が桐生(群馬県)から八丁式燃糸機を導入したのが始まりといわれている。現在の製造品目としては、主力製品の絹、合織縫糸をはじめ、各種繊維による織物、二ツ用燃糸、産業資材用燃糸、ボディファッション縫製品などが生産されている。

沢よりや

この沢沿いの民家ではほとんどの沢に水車をかけ、その動力で燃糸機を回し糸を燃っていた。半原ではこうした場所を「沢よりや」と呼び、ここには板橋沢、入りの沢などの地名が残っている。町の郷土資料館(県立あいかわ公園内)には、古くから伝わる燃糸の工具などが、保存されている。

(環境省・神奈川県 標識参照)

(右手に半原神社を見ながら、
細い道を入れて行く→)





登山口となるゲートを目指して出発。
神社を右手に見ながら、細い道に入る。しばらく道なりにアスファルトの道を25分ぐらい進む。

9時10分 登山口となるゲートに到着
ここで仏果山に直接登るコースと高取山を経由して仏果山に登るコースに分かれる。Aさんは仏果山、経ヶ岳に登る計画であったが、私が高取山に登る計画を話すと「では、折角なので、ご一緒してもいいですか?」という訳で、今回はAさんと一緒に山登り。

(ゲート前。左に行くと仏果山へ)

ゲートをくぐり、高取山へ向かうコースへ。しばらく行くと川を渡ることになる。標識があるので見落とさないように!!川を渡らず、そのまま舗装された道路をひたすら歩くとかなりの遠回りになるので注意。



(高取山へ向かうには一度川を渡る)



(鹿避けフェンス)

ここからひたすら樹林帯を登る。木道の階段があり、標識もこまめに設置されている。鹿の害から守るための、鹿避けフェンス(結構崩壊されていた)もあちこち設置されている。



10時15分 標高705m高取山に到着

高台があり宮ヶ瀬湖、丹沢山系が一望できる。この日は気温が高かったので、霞かかっていたがそれでも素敵な景色が一望できる。

景色を堪能しつつ、バスの中で食べ損ねた朝食のおにぎりをパクリ。温かいお茶を一口。一息ついて、仏果山を目指す。高取山から仏果山は地図上は30分。高取山からも仏果山の姿を見ることが出来る。



(高取山からみた仏果山)



(仏果山山頂近く)

ゆるやかなアップダウンで気持ちの良い稜線コースである。山頂直下はロープも設置されている。

11時15分 標高741.1m仏果山に到着

子供連れ、犬連れなど多くの登山者に賑わっている。再び展望台へ。

<ポイント2>

仏果山のいわれ

この山は、室町時代のはじめ、清川村煤ヶ谷にある正住寺(臨済宗鎌倉健長寺派)を開山した天鑑存円上人(仏果禅師)が、座禅修行をした山といわれている。天鑑存円上人が座禅したという座禅石は、いつの頃から煤ヶ谷側の仏果沢に落下してしまった。こうした由来から、この山の名を「仏果山」と呼ぶようになったという。(現在この座禅石は下の採石場わきにある)

また、この山は昔、煤ヶ谷の人々は南麓と呼び、半原超え(半原峠)から仏果山周辺までを南山と呼んだ。津久井町長竹・葎尾根などは半原富士と呼んでいた。(環境省・神奈川県 標識参照)

いい時間なのでお昼にしようと、私もAさんもそれぞれコッヘルを取り出し昼食の準備。持参したラーメンでお腹を満たす。



(仏果山山頂で昼食を楽しむ登山者)

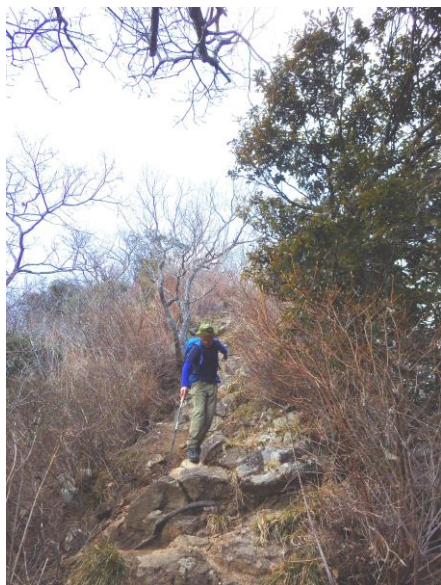


(仏果山山頂にある立派な高台)

12時20分 経ヶ岳目指し、仏果山山頂を出発

ここで二人とも地図を確認しなかったため、誤って半原に戻るコースへ進んでしまう。あまりにも下るので心配になった私が地図を見直す。やはり間違えている。経ヶ岳に行くには、今下った道を登り返さなくてはならない。Aさんに「どうしますか?」と聞くと「それはもちろん、戻りましょう!」と即答。約45分のロスである。山頂に戻る。仕切り直して再出発。

仏果山から進むとすぐに痩せ尾根が現れる。鎖も設置されている。気を付けて通過されたい。アップダウンを繰り返す。途中、革籠石山という標識が現れるも景観なし。



(仏果山山頂から経ヶ岳山に向かう道中)



(半原越から再び登りの階段)

一度舗装された道にでる。

14時05分 半原越着

ここから経ヶ岳山頂までひたすら登りになる。木道の階段がかなり続く。経石というポイントを通ると山頂社がすぐである。

14時35分 標高 633.1m 経ヶ岳山頂着

大分雲が出てきて、日差しが弱くなっている。天気がよければ丹沢山系が一望できる素敵な山頂である。止まっていると体がどんどん冷えて寒いので、早々に出発。

計画では、宮ヶ瀬湖の方に下山して時間があったら温泉に入って帰ろうかと思っていたが、Aさんと一緒に朝、バスで通過した半増坊前のバス停に下山することに変更。ここからはひたすら下るのみ。

15時50分 412号線 道路に下山

「なかなか歩きごたえのある山でしたね」と私。Aさん「また登りにきます!」

一日一緒に歩いたAさんと帰りの電車でお互い自己紹介(笑)。

ここで初めてお名前を聞く。また関東周辺の山でお会いしそうな予感がする。

今日一日ありがとうございました。

9時10分 登山口ゲート着
10時15分 高取山山頂着
11時15分 仏果山山頂着
14時05分 半原越着
14時35分 経ヶ岳山頂着
15時50分 412号線道路に下山

(丹沢の夏はヒル対策が必須→)



文責:松田留美

「埼玉新聞」に当社「株式会社エキスパートオブジャパン」が紹介されました！！

【キラッと・カンパニーズ】のコーナー

今年2017年3月2日に発行された埼玉新聞にて、当社が取り上げられました。エキスパートオブジャパンの前身である石井製作所の説明から、「純日本製」山道具メーカーとなる現在の会社に至るまでの話も紹介頂いています。昨年末に永眠した故石井貞男も天国でとても喜んでいるのではないかと思います。純粋に山を愛するその想いとアイデア、そして多くの山仲間達のアドバイスによって生み出された商品の数々は今も貞男の哲学が詰まっています。そして、さらなる挑戦に向けての途上で永眠した貞男の想いと夢を引継ぐのが現社長・石井正子です。専務として夫であった貞男と共に会社を発展させてきた正子ですが、今年からは社長となり、良きものは引継ぎ、そして時代に合わせて変えていくべきところは改善し、会社を進めてまいります。その気持ちと決意も簡単ではありますが紹介頂いています。今後も Made in Japan にこだわり、弊社商品をお使い頂く方々に満足のいく商品を作り続けていきます。

キラッと★カンパニーズ★

深い雪の山歩きでは必需品のスノーシュー、固く凍った氷雪の上を歩くためのアイゼン。岳人の命を守るこれらの山用品のメーカーがエキスパート・オブ・ジャパン。「山を愛する全ての人に、一つ一つ手作りで作り出す。メイド・イン・ジャパンを届ける」が会社の哲学だ。この名前の会社が、川口市榛松で設立されたのは1991年4月。初代社長は山登りが大好

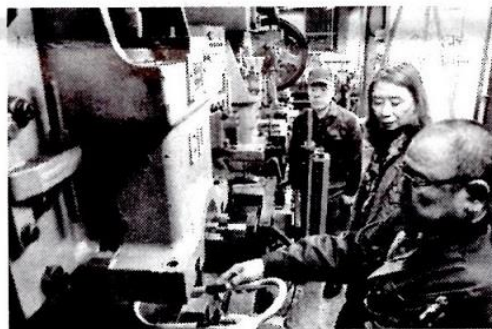
エキスパート・オブ・ジャパン(川口)



石井正子社長が持つのはピックル。左の手前から主力製品のアイゼン、スノーシュー
川口市

「純日本製」を売る山道具

手前の千田務さん(64)が持つのはアルミ製のスノーシュー。向こうに石井正子社長、佐藤三男さん(67)。モノづくりのベテランが工場を守る



きで、日本山岳会会員だった石井貞男さんが、昨年12月31日、75歳で惜しまれて他界した。ルーツを訪ねると、戦前の1927(昭和2)年にさかのぼる。貞男さんの祖父・寅吉氏が東京都豊島区西巢鴨で創業した石井製作所は中島飛行機の部品を作っていた。45年の終戦のころ、工場は戦災で焼失していた。2代目で貞男さんの父、末松氏が金属加工工業を再建した。

貞男さんは小学校5年生の夏に八ヶ岳に登り「山から離れられなくなった」。都立王子工業高校から陸上自衛隊に入隊する傍ら、工学院大学でも学び87年に3代目の石井製作所社長に。しかし、貞男さんは「下請け工場からの脱却」という夢を追い続け、石井製作所の発展的解消として独立した山用品メーカーとして実現したのがエキスパート・オブ・ジャパンだった。月に1度、製品の案内のほか貞男さんの山行記を掲載した冊子「エキスパートコレクション」を発行してきた。第1号は85年1月18日号。貞男さんの自筆の原稿は約3年前まで続き、愛読者を獲得した。連載を選んで本にした「徒然の山」(94年、随想社)は北海道から九州まで全国の山を網羅した。山行記の連載は社員が引き継いでいる。今年2月号で389号になった。社長職は妻の石井正子さんが継いだ。

川口市榛松699▽☎048
281・1322
(岸鉄夫)

石井正子社長

夫は自前にこだわり、細かな部品もネジ以外
は自社で手作りし、正真正銘メイド・イン・ジ
ャパンであることに誇りを持っていた。次の夢はアジアの岳人へ売り込
むことだった。それを私が引き継ぎます。